



学校だより

北小 Revival～ありがとう 75 年 100 年に向かってスタート

# はと広場

9 月 号

令和 3 年 8 月 2 6 日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

## 共感～理解する時間～

校長 三村 悟

今日から2学期が始まります。心と体をリフレッシュした児童が学校に戻ってきてくれました。一人一人が36日間の夏休みで見つけた「やれば出来る自分」の話を聞かせてもらうことを楽しみにしています。

コロナウィルス感染症拡大が深刻な状況で、不安な気持ちを抱えながら今日を迎えた方も多数いらっしゃると思います。学校では、従前からの予防対策を徹底するとともに、緊急事態宣言中は清掃やクラブ等の異学年児童が交流する活動を制限して拡大防止に努めながら、慎重にかつ着実に児童の学びを進めてまいります。

7月23日から8月8日まで開催された第32回オリンピック競技大会では、世界各国から東京に集まったアスリートが、素晴らしいパフォーマンスを披露し多くの感動を与えてくれました。さまざまな意見がある中での開催でしたが、テレビの前で真剣に応援し、スポーツの持つ力を再認識する機会となりました。24日からは東京2020パラリンピック競技大会が始まりました。オリ・パラ教育に取り組んできた学校として、アスリートの活躍に注目し、その活躍を讃えていきたいと思っています。

さて、9月は「さいたま市いじめ撲滅強化月間」です。これまでは6月でしたが、8月30日に行われるいじめ撲滅シンポジウムの成果を生かした取り組みとするため、今年から9月になりました。

いじめが起こる状況を調べていくと、多くの場合「違和感」が関係しています。「あの子は変だ」「みんなと違う」といった感情から、仲間はずれや言葉による攻撃が始まることが多いのです。

違いに気づくのは、人間として大切な感性です。違いを感じた後、その違いを理解しようとして関わるのか、それとも否定したり排除したりしようとして関わるのかによって、関係性が大きく分かれてしまいます。共感的な関係を築くにはどうすればよいのでしょうか。

この夏読み返した「星の王子さま」(サン=テグジュペリ)に、こんな一節がありました。  
**「少しずつ、なにもかもが明らかになっていったのは、たまたま王子さまの口から出たことばが、つながっていったのことだった」**

相手を理解するためには、時間が必要です。言葉の断片を切り取って決めつけるのではなく、じっくりと全体像を見ていくことが大切です。

効率化が重視される時代の中で、「早く」「分かりやすく」「簡単に」が優先され、自分のモノサシに合わないものは理解しようとしめない傾向が、いじめの原因の一つかもしれません。相手の気持ちを理解する時間を大切にする9月にしていきたいと思っています。



中庭のオクラの花